

う特異な感性」ともいふべき表現が見られ、やがてそれは、夢と幻想の世界、幽玄の世界へと昇華されていきます。

晩年の大西さんは、多くの新聞や雑誌の選者を務める傍ら、現代歌人協会理事、埼玉県歌人会副

会長などを歴任、平成4年（1992）11月には紫綬褒章を受章しています。

平成6年（1994）1月5日、自宅にて急逝。享年69歳。平成10年（1998）には遺歌集『光たばねて』が刊行されました。

大西さんと現代短歌新人賞



大西さんの遺稿、蔵書等約1万点と著作権が、平成8年（1996）、旧大宮市に寄贈されたことをきっかけに、(仮称)大宮文学館を整備する構想が浮上します。この構想は、その後消滅しますが、平成12年（2000）、旧大宮市が文学館の先行事業として「現代短歌新人賞」を創設。合併後も引き継がれ、平成28年（2016）には、第16回を開催するに至りました。

「現代短歌新人賞」は、歌壇に新風をもたらす歌人の発掘・支援を行うことを目的として、毎年、有識者へのアンケートで多くの推薦を受けた歌集、選考委員が推薦する歌集の中から、受賞作品を決定しています。

その表彰式では、毎回授賞とともに著名な歌人・詩人の方々に特別講演をお願いしています。昨年

の第15回では記念座談会「大西民子を語る」と題し、選考委員5名が大西さんの歌を読み解くとともに、逸話などを紹介されました。

相次ぐ不幸に屈することなく、それを文学に昇華させた大西さんの歌と生きざまは、没後20年以上たった今でも語り継がれ、さいたま市に息づいています。



▲大西民子さんイラスト
(森田敏男/画)

※大西民子氏をはじめとするさいたま市ゆかりの文学者の資料を展示・紹介できるよう、大宮図書館で現在整理を進めています。

第16回 現代短歌新人賞受賞作が決まりました

さいたま市が主催する「現代短歌新人賞」は今年で16回目となります。平成27年12月6日の選考会で選ばれたのは、尾崎朗子さんの歌集『タイガーリリー』(ながらみ書房 2015)です。

「尾崎朗子歌集『タイガーリリー』には作者の生の重み、深みが感じられ、時にユーモアを感じさせる作もたんにユーモアに終わらず、切実な想いがその奥に隠されており、安定した表現も評価し、贈賞を決めたのである。」

(選考委員講評、さいたま市ホームページより)



作品や選考過程についての記事が、雑誌『ミセス』(文化出版局)2016年3月号に掲載されています。『ミセス』は図書館でも所蔵していますので、ぜひご覧ください。